

賀茂村

地形概況

駿河湾に面する宇久須川や安良里浜川にそう谷底低地は砂堆で閉塞された低湿地と扇状地性の低地からなる。黄金崎はじめ山地が海にせまって、海食崖を形成する。東部の山地は猫越火山の西斜面で緩斜面も残る。北部山地は珪石採取で改変された。

地質概況

猫越火山は安山岩類・凝灰角礫岩からなる。宇久須一帯は湯ヶ島層群の輝緑凝灰岩からなり、安良里一帯は白色凝灰岩類の白浜層群からなる。石英安山岩類の貫入岩体も分布する。宇久須珪石の採石地は珪化作用の進行した地域である。

気象概況

年平均気温は推定 15.5℃、年平均降水量が推定 2,220mm で冬季に暖かく夏季も高温にならないため、気温較差が小さく過ごし易い。降水量はやや少なく、日の当たる日が 50%以上あり、冬季には平均 4m 程度の西風が吹く日が多い。

災害事例 地震

- 1978年1月14日（昭和53年）伊豆大島近海地震 M=7.0
被害は住家半壊27戸、公共建物1箇所、病院2箇所、道路65箇所、港湾施設1箇所、水道90箇所などに及んだ。
- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9
県中・西部では甚大な被害を生じた地震であるが、伊豆半島では被害をほとんど生ぜず、宇久須でも震度4の程度であった。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
県下一円大被害を生じた地震であるが、宇久須では比較的軽微で、震度4～5程度と推定されている。

災害事例 津波

- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震津波
宇久須では130戸のうち40戸が流失する被害があった。津波の高さは安良里で4.5～6m、宇久須で3～5mと推定される。また津波は地震後3分程度の短時間で来襲しただろうと、数値実験から推定されている。

災害事例 台風

- 1958年9月26日（昭和33年）狩野川(22号)台風
伊豆半島一帯で被害甚大で、死者・行方不明1,000人以上に達した。当村では負傷者3人、全壊2戸、半壊23戸、流失4戸、床上浸水185戸、床下浸水134戸、流埋田畑4haの被害を生じた。
- 1938年6月29日（昭和13年）
県中・東部から伊豆地方で豪雨があり、宇久須での6月28日～7月5日8日間の雨量は691mm、最大日雨量(29日)345mmに達した。

- 1903年10月2日(明治36年)
伊豆地方豪雨、宇久須で日雨量385mm。
- 1759年8月7日(宝歴9年)
“洪水人多く死す”という記録が残っている。
- 1671年9月29日(寛文11年)亥の洪水
“洪水人馬多く死、之を亥の洪水といふ”と記録されている。

災害事例 豪雨

- 1874年7月10日(明治7年)
本村字広尾で山崩れ、水押し出して洪水が起こり、田畑は大荒れした。大川の決潰により人家浸水し人畜が死傷した。田は2町2反5畝23歩が押堀、石砂入の被害を受け、畑も1町1反2畝25歩が同様の被害であった。

災害事例 旱魃

- 1926(大正15年)
県下全般に旱魃で、農作物は大被害を受けた。宇久須で8月の雨量は39mmに過ぎず、平年にくらべて254mmも少なかった。